

いたずらおばあさん

高楼 方子/作 千葉 史子/絵 フレーベル館

洋服研究家のエラババ先生は、84歳。長年の研究によって、1まい着ると1歳若くなる透明な服を発明しました。エラババ先生と、弟子の68歳のヒヨコさんは、その服をたくさん着て、8歳の女の子になり、町に出かけました。そして、えらそうな大人たちに、いたずらを行います。



アマガエルとくらす

山内 祥子/文 片山 健/絵 福音館書店

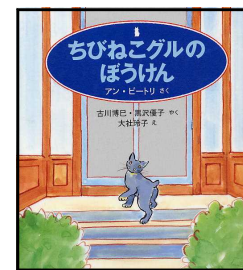
文を書いた山内さんの家の流しに、2年続けて同じアマガエルがやってきて、5月から夏の終わりまでくらしていました。翌年も、カエルはいついたので、土を入れ、植物を植えた水そうで飼うことにしました。くらしの音にあわせて鳴くことや、冬眠や脱皮など、飼うことでいろいろなことを知ります。なんと14年も共に過ごしたカエルもいました。



ちびねこグルのぼうけん

アン・ビートリ/さく 大社 玲子/え 古川 博巳・黒沢 優子/やく 福音館書店

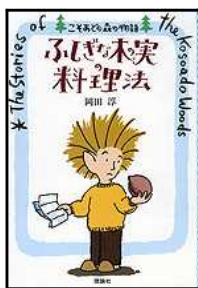
子ねこのグルは、お母さんや兄弟とわかれて、お店をしているジェームズさんの家にもらわれてきました。しかし、気短のグルが、お客さんを引っかけってしまったので、ジェームズさんはグルを返すことに決めました。ジェームズさんの家にいたいグルは、気短を直そうとがんばります。



ふしぎな木の木の料理法

岡田 淳/作 理論社

スキッパーは、バーバさんと、こそあどの森に住んでいました。南の島に出かけたバーバさんから、ふしぎな木の果と、手紙が届きました。ところが手紙がぬれて、文字がにじみ、木の木の料理法がわかりません。いつもは肉気なスキッパーですが、木の果を持って、森のみんなの家に行き、料理法をたずねます。



夏休みに 読んでみよう!

2023年

3・4年生用



ピググル・ウィググルおばさんの農場

ベティ・マクドナルド/作 モーリス・センダック/さし絵 小宮 由/訳 岩波書店

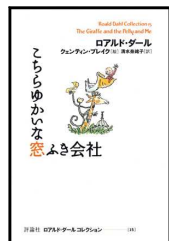
ピググル・ウィググルおばさんは、小さい農場で牛や馬、ニワトリなどたくさんの動物とくらしています。おばさんは、大の子ども好き。この農場でくらしした子どもは、どんなこまたくせを持っていても直ってしまいます。うそつきのフェットロック、何でも分解除してしまうジェフィ、さがしものが下手なモートンたちはどう変わっていくでしょう？



こちらゆかいな窓ふき会社

ロアルド・ダール/作 清水 奈緒子/訳 ケンティン・ブレイク/絵 評論社

ゆかいな窓ふき会社の社員は、ペリカンのベリーとキリンとサル、それにマネージャーのビリー。できたばかりの会社に、ハンプシャー公爵から677枚の窓ふきの仕事がきました。ビリーたちが公爵の家へ行き、窓ふきを始めると、夫人の部屋にはピストルをもったどろぼうがいたのです。



火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン/作 ローレンス・ディ・フィオリ/絵 佐藤 涼子/訳 評論社

ヒキガエルのウォートンは、雪の中、砂糖菓子をおばさんに届けようと、セーターや上着を重ね着し、スキーに乗って出かけました。ところが、ミズクにつかまり、5日後の火曜日に食べられることになりました。ウォートンは、セーターをほどいてはしごを作り、逃げ出す準備をしていましたが、日曜日の夜、ミズクに見つかり、はしごは捨てられてしまいます。



ワビシーネ農場のふしぎなガチョウ

ディック・キング=スミス/作 三原 泉/訳 いとう ひろし/絵 あすなろ書房

ワビシーネ農場のスカンピンさんは、びんぼうで運が悪い人でした。家畜はみんな売りはられ、とうとうオスのガチョウのションポリと、メスのガチョウのガックリだけになってしまいました。ところが、ガックリが産んだ金色のたまごから、金色のひながかえると、スカンピンさんに幸せなことが次々とおこります。

